

令和5年度 江戸川区立東葛西小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○やさしい子(思いやりの心を大切に生活する子を育てる) ○やりぬく子(責任をもって最後まで取り組む子を育てる) ○げんきな子(健康安全に努め明るく行動する子を育てる)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子供の笑顔が輝きあふれる、楽しい学校。教職員が教えることの喜びに満ちた学校。保護者、地域から信頼され愛される学校。 確かな学力、豊かな人間性、健やかな身体 児童理解、授業改善、生活指導の充実を図り、自己研鑽をしながら学校組織の一員としてよりよく協働している教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>校長の経営方針「子供が輝く学校」をテーマにいじめ・不登校等の未然防止や早期発見に向けた魅力ある学校づくりの取組が充実できた。また、日々のユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備と個に応じた指導の充実を図ることができた。更に週2回の朝学習や毎週金曜日の放課後学習と、業者による補習を各学年毎週実施することで、中間層の児童の学力を向上させることができた。 <課題>算数の文章題や国語の読解力等に課題が残った。秋から復活した図書ボランティアによる読み聞かせで、児童の情緒の安定や学習意欲の向上に役立ったが、読書活動の内容の充実とともに、読書活動の内容の充実と共に、読書量の増加と読解力の向上に課題が残った。また、学校における働き方改革プランに基づく取組の実施を行ったが、学校行事や成績処理などにより、超過勤務になりがちであった。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「校内学力調査」の実施から児童の実態を把握し、朝学習、放課後補習等で個別指導を行う。 ・算数はかけ算の定着を図るために、かけ算認定を行う。 ・宿題キャンペーンとして、全校で家庭学習習慣の定着を図り復習の習慣をつけ、学力向上を図る。	・年3回の校内学力調査を実施する。指導が必要な児童に対して月1回程度の個別指導を行う。 ・かけ算認定の合格者が80%。 ・宿題の提出率が年度末までに80%。	A	B	○1学期の学力調査は実施。月1回の個別指導も実施。 ○管理職によるかけ算検定を行っている。 ●宿題の提出率が80%に到達していない学級があるため、改善する。	B	個別指導等での成果を期待する。 算数の成果が出ることを期待する。	・特に児童が苦手な分野について月1回の個別指導を行っている。 ・かけ算検定の前に担任による補習を行い、定着を図っていく。 ・担任による宿題の声掛けを徹底していく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・年間69回の朝学習の時間を利用して朝読書の活動に取り組み、本を読むことの楽しさや読書の幅を広げることにより、知識を深める活動を充実させる。 ・近隣の図書館の訪問や団体貸出し、派遣の図書館司書等により各教科における「調べ学習」の充実を図る。	・1年間の目標を80%達成した児童が80%。 ・全学年、2か月に1回の調べ学習の実施。	A	B	○朝読書などを利用して読書活動に取り組んでいる。 ●読書量は個人差がある。 ○概ねどの学年も本を活用して、調べ学習を実施している。 ●学校行事等による学習内容の入替等でできないこともある。	B	読書活動による知識の充実を期待する。 調べ学習の継続をし、知識を増やしてほしい。	・読み聞かせ等を行うことで、本への興味を持たせる。 ・調べ学習を継続し、新聞や掲示物作成により、活用していくようにする。
	<東葛西小学校スタンダード> ・算数少人数指導の充実	・どの学年も同じように指導できる、東葛西スタンダード「算数」を設定し、担当の教員が変わっても同じように指導できるように工夫する。	東葛西スタンダード「算数」の定着が80%。	B	B	○高学年の定着はできている。 ●学級の実態によって定着が難しい部分がある。	B	全学級の定着に期待する。	・継続して学習中に指導をしていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育科の学習や休み時間の全校での取組	・「東小プレイタイム」を実施する。持久走、なわとび、長縄跳びにおいては期間を決めて毎日行う。また、それ以外の時間は、学級ごとに様々な遊びを行い、日常的に運動に取り組めるようにする。	東小プレイタイムを年9回実施。	A	A	○東小プレイタイムを2回実施済み。 ●学校行事等で予定していた時期にできなかったことがある。	A	今後も継続し、成果に期待する。	・継続して年間9回の実施を行う。
	・体育科の学習において、児童が自らすすんで運動に取り組む児童の育成にむけて、校内研究を行う。 ・各領域での様々な取り組みを今年度は行っていく。	・年8回の研究会を行い、教員の研鑽を図る。	A	A	○6年、2年で研究授業を行い、3回の研究大会を実施。	A	児童の体育に対する興味・関心が高まることを期待する。	・全ての学年での研究授業を行い、系統的な指導の模索を行っていく。	
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・メンタルルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・SC、SSW、巡回心理士と連携し、気になる児童の見立てや対応について、校内委員会等で検討する。 ・教員が順番にエンカレッジ担当となり、誰がいっ登校しても対応できる体制づくりを行う。 ・配慮の必要な児童について週1回の生活指導夕食や職員会議後等を使って情報の共通理解を図り、対応策を検討する。	・1学期中にSCによる5年生の全員面接実施。 ・週1回の生活指導夕食を行い早期対応を行う。	A	A	○SCによる5年生の全員面接を実施済み。 ○週1回の生活指導夕食を行っている。	A	学校全体で児童の見守りをし、児童の安心できる学校を継続してほしい。	・気になる児童や保護者の悩みがあれば、SCにたのまない児童や保護者が安心できる体制をつくる。 ・継続して行う。緊急性の高いものは随時行う。
	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・Hyper-QUの活用	・ふれあい月間やQU調査などにより、児童の実態を把握し、いじめや不登校の未然防止を図る。	・1学期中に5年生の全員面接実施。 ・週1回の生活指導夕食を行い早期対応を行う。 ・年間1回Hyper-QUの実施。	A	A	○SCによる5年生の全員面接を実施済み。 ○週1回の生活指導夕食を行っている。 ○Hyper-QUの実施済み。	A	いじめや不登校のない学校を目指して、速やかな実態把握をして、取り組みを継続してほしい。	・継続して週1回の生活指導夕食で情報の共有と共通理解を図る。
子どもたちの健全育成	・チャイルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・児童相談所等の外部機関と連携し、児童の問題行動等の未然防止と解決を図る。	・随時児童相談所や外部機関と連携していく。	A	A	○児童相談所等と、随時連携している。	A	随時連携し、児童の健全な生活を目指してほしい。	・継続して連携を図っていく。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・各学年定期的にHPにて、学校行事、学年活動、学級活動等を更新する。 また、学校公開、学校行事などの予定や連絡等HPに随時更新していく。	・各学年1週間に1度はHPにて、学校行事、学年活動、学級活動等を更新する。 ・学校公開や学校行事については随時連絡をUPし、更新していく。	A	B	○学校行事、学年活動等はHPに掲載できている。 ●学級活動の掲載が遅い時がある。	B	全学年がHPに定期的に掲載してほしい。	・学校行事や学年活動等のHPへの掲載を継続して行っていく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校公開や学校行事の際に、学校評議員に教育活動の内容等を丁寧に説明することで、校長の経営方針について、理解や協力を要請する。 ・教育活動の充実と改善のため、ホームページやメール等で随時配付し、児童や保護者に評価項目に沿って適正な評価につながるよう働きかける。	・年2回の学校評議員会を行い、学校の教育活動への理解を要請する。 ・年3回の保護者会、年1回の面談を通じて働きかける。	A	A	○9月に評議員会を実施。 ●PTA行事や地域行事などの話し合いを進めた。 ○1学期の保護者会を実施。	A	取組の継続と話し合いによる相互理解を図りたい。	・1月に評議員会を実施予定。 ・12月に個人面談を実施予定。2月に保護者会を予定。
	<特別活動の充実>	・運動会などの学校行事において、児童の主体的な活動を取り入れて、達成感をもつことができるようにする。 ・縦割り班活動などの異学年交流による、児童間の相互理解や支え合いや学び合いの推進をしていく。	・運動会、学習発表会等において児童の主体的な活動を取り入れる。 ・年11回の縦割り班活動による異学年交流の実施。	A	A	○6月に運動会を実施。10月に合唱祭を実施予定。 ○縦割り班活動を5回実施。	A	学校行事を保護者も子供も楽しみにしているので、継続してほしい。	・縦割り班活動を6回、実施予定。